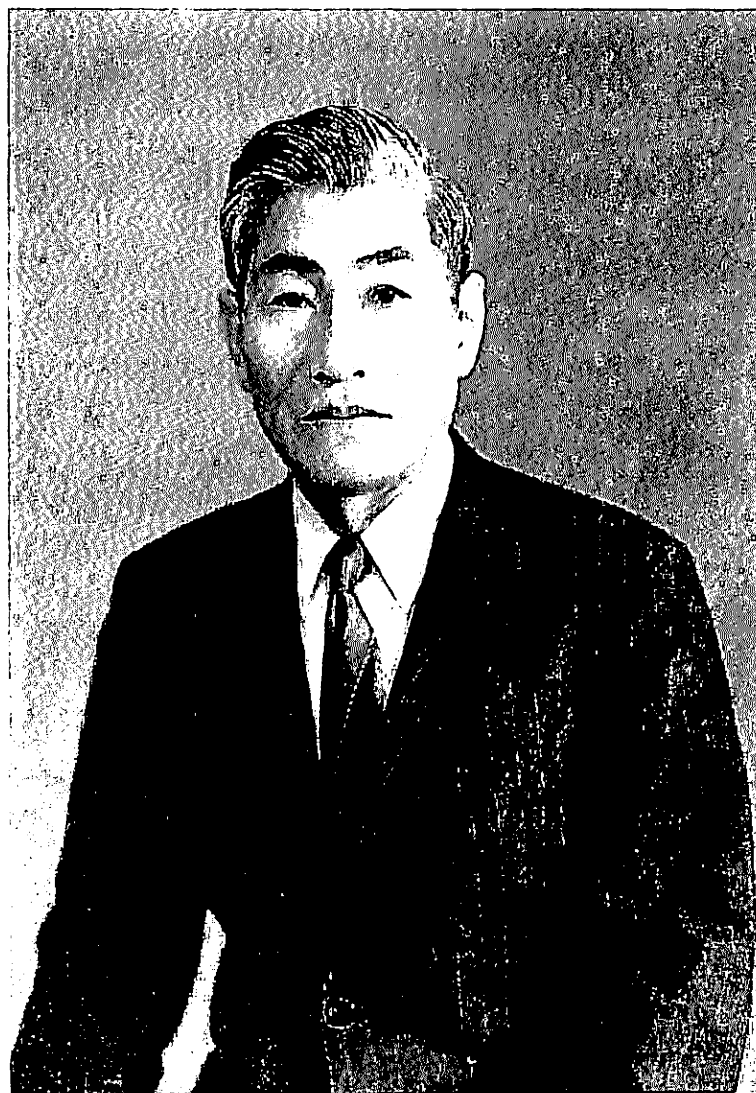




Tokyo Gakugei University Repository  
東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	紙碑 松村安一先生を偲ぶ( fulltext )
Author(s)	犬井,正
Citation	学芸地理(58): 3
Issue Date	2003-10-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/38607">http://hdl.handle.net/2309/38607</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	



松村 安一 先生

## 松村 安一先生を偲ぶ

## 主な履歴

- 昭和 8年 東京高等師範学校文科四部卒業  
 同年 東京府青山師範学校教諭  
 昭和 18年 東京第一師範学校教諭  
 昭和 22年 東京学芸大学助教授  
 昭和 37年 東京教育大学東京文理科大学より  
 理学博士の学位授与  
 昭和 43年 東京学芸大学教授  
 昭和 45年 東京学芸大学大学院教育学研究科  
 担当  
 昭和 48年 東京学芸大学定年退官

学芸地理学会名誉会員であり、東京学芸大学名誉教授の松村安一先生は、2002年7月11日の早朝に、不帰の客となられた。享年93歳、謹んで哀悼の意を捧げたい。

先生は1909(明治42)年に兵庫県神戸市でお生まれになられ、1933年に東京高等師範学校を卒業され、同年、東京府青山師範学校の教諭に就任された。その後、学校は東京都官立東京第一師範学校、さらに第二次世界大戦後は東京学芸大学と名称を変えてきたが、先生は40年間の長きにわたり、東京学芸大学地理学教室とその前身で地理学の研究と教育に没頭されてきた。東京学芸大学教授を1973年に定年退官し、大正大学教授に迎えられ、その後も研究と教育を続けられた。

先生のご研究の領域は、一貫して農業・農山村を中心とされていたが、これに前半は近世交通が加わり、後半は林業が主であった。第二次世界大戦中のご家族の疎開地を研究対象地域にして、青梅林業地域の形成と発展に関する地方文書を渉猟され、詳細な現地調査を行ない、その成果は「人文地理」や「地理学評論」に数多く発表された。1962年、東京教育大学から「近世青梅林業の成立及び発展に関する歴史地理学的研究」によって理学博士の学位を授与された。

その後、先生は全国のスギ挿し木林業地域の形成と発展を技術史的な側面から体系的に明らかにされ、「地理学評論」、「徳川林政史研究所紀要」などに多くの論考を発表され、「林業地理学に松村あり」の名声を打ち立てられた。

先生は目立つことや人と争うことを好まれず、黙々とご自分の研究に打ち込まれていた。ことに学問の道では己にきびしく、生涯、現役の研究者でいられることを誇りにしておられた。学芸地理退官記念号の「大学を去るに当たって」の中で、「臨地研究や卒業論文について相談を受けたことが多かったが、私は余り積極的に指示することを控えてきました。あるいは誠意がないとか熱意がないとか受け取られたかもしれませんが。しかし、諸君の独創性を尊重すると、余り強く言えばこれを損なうことを恐れたからです」と述懐されていたが、この文章に先生のお人柄や教育理念が凝縮されていると思えてならない。

しかし、不肖の弟子の私には、学位論文と格闘していた1989年の盛夏に「残暑の折柄お元氣ですか、小生も大分弱ってきたようですがなんとかすごしています。ところで、論文は出来上がりしましたか。書きあげたら1ヶ月くらいそのままにして、その後2回くらい読み直しをして提出すること。期限一杯点検することです・・・」と励ましと注意を喚起する手紙をいただいた。

このように「きびしさ」と「あたたかさ」をもって、不肖の弟子を常に気遣っていただいたそのお姿もすでない。「研究者には引退の時はない」を口癖に、丹念な史資料の探索など実地調査に励まれていた先生の姿こそは、私ども後学の徒には鑑とすべきものである。ここに松村安一先生の学恵とご人徳を想起し、ご冥福をお祈り申し上げる。

合掌

(大井 正)